

市議会活動報告 11

2017年8月号



南相馬市議会議員

もんま 和夫

門馬 かずお

楢葉町

竜田駅東と駅西（6号線との間）の2カ所の市街地整備や工場用地造成。鮭ふ化場再建も。



再築された木戸川鮭ふ化場



駅西の開発区域を北から望む。災害公営住宅や店舗、診療所（県営）などが建設中

川内村

田ノ入工業団地を中心に、村で店舗も設置。



田ノ入工業団地。一社が社屋建築中。

田村市

主に、船引の産業団地や木質バイオマス発電所建設事業。農産物直売所や賃貸住宅も建設。



市で建築し、JAが運営している商業施設

川俣町

主に、西部産業団地事業。粗飼料生産流通拠点、商業施設も建設。



山木屋地区復興拠点商業施設「とんやの郷」

葛尾村

小中学校の整備事業と村復興交流館（木質バイオマス）を建設。

広野町

広野駅と役場、学校を核にした町づくりを構想。駅東開発及び広野工業団地事業等も実施。



町立「ひろのみらいオフィスビル」を中心に、民間の病院や公営住宅を建設、駅の東側を市街地化している。

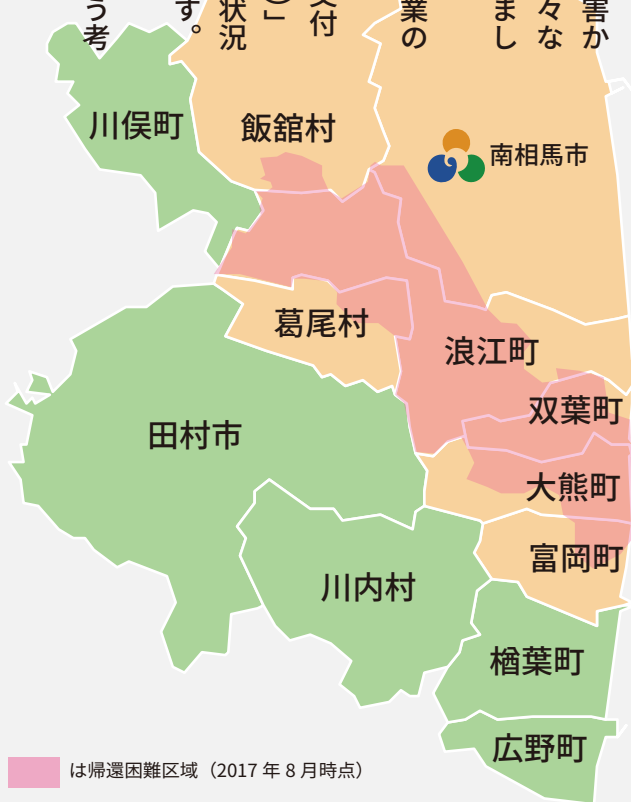


南相馬市

工業団地及びため池除染事業で交付金の81%を占める。その他小高復興拠点や認定こども園事業、農業施設整備事業等もあるが、ほとんどが調整や計画段階のため、写真ありません。

全域・多くの地域の避難指示が解除された町村

国は、原子力災害からの復興に向け様々な支援制度を創設しました。今回は、復興事業の主な財源である「福島再生加速化交付金（帰還環境整備）」の相双地方の活用状況について報告します。本市と比べて、どう考えますか？



は帰還困難区域（2017年8月時点）

多くの帰還困難区域を含む町村

飯館村

学校施設、総合運動場を役場中心に整備。

道の駅等集客・交流機能は県道原町川俣線沿線に、各々機能を集約して整備計画を進める。

交付金は、学校施設整備（給食センター、プール、認定こども園も含む）、農業基盤整備、災害公営住宅事業が中心



飯館村役場南に建設中の小中一貫校。

双葉町

全町避難中で、当面、中野地区復興産業拠点（産業・研究・業務施設）を先行実施。

双葉町、大熊町は立ち入り禁止のため写真なし

浪江町

藤橋地区産業団地、浪江中学校付近整備。小高に隣接する旧原発予定地は、水素製造拠点構想がある。



役場庁舎南に整備された仮設商店街。庁舎北には、診療所も新設。



手前が認定こども園。奥が小中学校で中央に給食共同調理場。東側には公営住宅85戸を建設中。

大熊町

現時点では、国道東の大川原地区整備（商業・公共施設、住宅、産業・研究施設など）を実施。

富岡町

山沿いの工業団地と駅付近の市街地復興先行ゾーン（写真）の整備事業が中心



6号線沿いの「さくらモール富岡」。この背後富岡駅と間に公営住宅群や診療所などを建設中。

和夫のまちづくり研究室

第11回 福島再生加速化交付金の使いみち

復興事業の効果を上げるには？

交付金の使いみちが国から指定されている中、各町村は住民帰還を目指して独自の新たな取り組みを開始しました。全ての市町村で、産業団地整備・放射能対策を実施しています。

帰還困難区域を含む町村ほど、新市街地や産業拠点を創る大規模計画です。

（ただし、解除未完了のため交付決定事業はまだ全体のごく一部に留まっています。）
一方、農業再生、教育施設集約、住宅施策、住民の交通手段確保策、そして既存施設・資源活用や施設の連携方針などは、自治体間で大きな差異があります。

さて、南相馬市の再生に向けて、今のままで大丈夫でしょうか？

福島再生加速化交付金（帰還環境整備）とは

対象：避難指示を受けた12市町村を対象
目的：避難住民の早期帰還の促進及び地域の再生加速化を促進する
決定額：26～29年度再生加速化交付金決定総額1千334億円
この内南相馬市交付決定済額は188億円
（工業団地81億円、ため池除染72億円）

6月議会の一般質問から

相馬市などは公設土取場を確保しているが、本市は事業の土砂の確保策をとっていないため、民間で小規模林地220箇所が乱開発状態です。市内の復興事業の土砂確保策と土取場の安全・安心対策は？

答 民間の土取場と各事業の残土利用により確保することを基本としている。必要量242・6万³m³に対し、240万³m³を調達済。安全・安心対策は、市が、事業者と地域との調整に努め、周辺住民に悪影響を及ぼさないよう事業者を指導している。

質問の背景

作業員の仮設宿舍も土取場も、市の復興には必要な事業であると周辺住民も理解していません。

同時に、治安対策や無秩序な土取による田畑への土砂流入への対策はしっかりとついでく必要があります、27年にも質問しました。

しかし、本6月議会で行政区長から「土取場の安全確保に関する要望書」が出されるなど、近隣住民から見ると安全対策は万全ではありません。

また、両事業ともピークは越えましたが、作業・工事中の安全確保に加え、**後始末をせず放置される懸念も出てきましたので、今回も質問しました。**

国は、除染土壌の再利用を目指して、小高で実証実験を開始した。市環境回復推進委員会は、国での安全基準作成や市民の理解等4条件を前提とした汚染土壌の再利用を提言している。一方市長は、除染土壌を積極的に活用するとの発言があるが、どの様な状況か？

答 今までも、災害廃棄物は海岸防災林に活用しており、不足する土については、環境影響を及ぼさない明確な状況については再利用すべきと考えている。

JRから、常磐線の除染作業で発生した碎石の仮置場確保の依頼を受け、海岸防災林の下に入れ再利用した、との発言記録があるが事実か。除染で出たものの扱いとして適正か？

答 JRから依頼を受け、国指導の下、小高区の防災林の高盛り土の資機材として使用した。区長さん等には話はしたが、住民全体との対話という視点では足りなかったのかとは思っている。

除染土再利用に関する市の実態

本来、除染土壌と、津波や災害復旧工事の発生土壌との取り扱いは、法令も基準も異なります。

市の環境回復推進委員会は、除染土の再利用を目指すのが、慎重・丁寧に対応すべきと提言しています。

しかし市は、JRの作業で出た鉄道敷石を十分な住民説明もせず（JRが要望した仮置き場でない）防災林に再利用してしました。

更に「除染土壌を常磐高速道に積極的に再生・活用すべき」との国への要望書まで提出してしまいました。

市民や議員にも知らせないまま「除染土壌を中間貯蔵施設に搬出しないで、市内で再利用する」との大きな方向転換が静かに進められています。

将来の市民不安や風評被害の面から、この地で除染土壌を再利用することは大きな決断と言えます。

除染土壌の再利用には、事前の市民理解・協力が必須です。今後も丁寧な対応を求めます。

市環境回復推進委員会の提言（四条件）とは

- ①再生利用についての「法整備」（＝現在は基準がなく、再利用できない）
②（再生利用先の）「需要」の確認
③（実証実験による）再生資材の品質の確認
④住民が受け入れること

相馬広域消防検閲式（原町区高見町）での消火訓練の様子



28年度はチーム付多目的消防ポンプ自動車、化学消防ポンプ自動車などを、29年度は高規格救急自動車など、火災対応や救急搬送体制はしっかりと充実されています。これに、病院での救急の受け入れ態勢がさらに充実されると安心なんです。

議会報告会ご案内

8月26日(土)10時～ 西部コミュニティセンター (鹿島区小池)

8月26日(土)14時～ 市民情報交流センター 中会議室 (南相馬市立中央図書館隣)

相馬広域議会で質問して

一般質問で、相馬看護学校卒の看護師確保のための質問などを行いました。

近年の広域議会では、最初の答弁は管理者である桜井市長が答弁しますが、再質問に対しては、なぜかほとんどを副管理者（立谷相馬市長）が答弁します。

それ自体も違和感があるのですが、今議会での私の再質問への相馬市長答弁の中で「看護学校入学に関する本市の原町高校へのPRが不足」「南相馬市看護師奨学金制度が悪い」旨の発言がありました。本会議答弁の中でこうした指摘を受け、副管理者から言われるままです。

広域組合の協議により、本市の対応や奨学金制度を改正するということなので、どうか？或いは「広域議会の場なので市民が知るところでない」と軽く考えているのでしょうか？

MJCとウイーン少年合唱団との合同演奏会（オーストリア大使館にて）



2017.5.2 2018年ウイーンで開催されるベートベン第9演奏会の開催発表会がオーストリア大使館で開催されました。MJCや金子代表が世界に羽ばたいており、とても誇らしい気持ちになりました。日帰り（強行日程の）演奏で、帰宅時はご覧の通り真っ暗でしたが、ご家族ともどもしっかりミーティングをしてからの解散でした。

石井国交大臣への道路など要望



2017.5.10 市議会の友和会（平田議員代表）の研修会に参加させていただき文部科学省、厚生労働省、農林水産省などの事業責任者に政策説明を受けてきました。国会中で多忙な中でしたが、石井国交大臣へ常磐線4車線化、小高IC、アクセス道路などを直接要望出しました。国に頼ってばかりではダメですが、国会議員や国の政策責任者との強いパイプが必須とも感じてきました。



2017.7.6 場所：6号線金沢交差点を東に約1km

いちばん星プロジェクト（原町区金沢）の新たなチャレンジ・喫茶店のオープン状況です。農家民宿、入浴施設、アルパカ飼育そして今回の喫茶店（軽食・スムージー・ビール・ワインもあり）開店で子どもからご両親まで楽しめる施設となりました。星社長以下、スタッフの皆さんが一体となって頑張っています。まさに、「市復興のパイオニア（先駆者）」と言えます。